

# ARTA



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI



## 「悲願へ最後の一步」

2018 ARTA DIGITAL Rd.7 AUTOPOLIS  
THE LAST STEP TOWARDS THE END

20年に及ぶ ARTA の歴史の中で、最後に王座に就いたのは 2007 年。

あれからもう 10 年以上の時が経ってしまった。GT300 クラスに至っては 2002 年以来、王座から遠ざかっている。

ついに今年は GT500、GT300 の両クラスが悲願の王座奪還の目前までやってきた。

その王座奪還に向けて、オートポリスは最終戦での最終決戦へ進むための最後の一步になる。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA



期待通り GT500 クラスの 8 号車 ARTA NSX-GT は前戦 SUGO の勢いそのままにポールポジションを獲得してみせた。GT300 クラスを戦う 55 号車 ARTA BMW M6 GT3 もそれに続くはずだったが、アタック完了目前に赤旗に遮られるという不運に見舞われまさかの予選 22 位。2 台は対照的な結果となってしまった。それでもマシンの速さには自信がある。タイトルへの最終決戦に挑むために、ARTA は決して諦めてはいなかった。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



POTENZA

スーパーオートバックス  
ニッポンを完走に!



Mobil 1

HONDA

Mobil 1



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA

AUTOBACS

POTENZA

Pioneer

55

AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

55

55

スーパーオートバックス  
ニッポンを完走に!



エグゼクティブアドバイザーの土屋圭市が、無理な注文だと分かっているからスタートドライバーの高木真一に言う。

土屋「真一、タイヤを減らさないでガンガン抜いてきてください！」

高木「了解です」

土屋「よろしくお願いします！」

高木の腕を信用しているからこそそのやりとりだ。

コース上にはタイヤカスが散らばり、遅いペースで走っているとそれがタイヤに付着してグリップを奪う。レースエンジニアの安藤博之も高木に情報を伝えながらレースを構築していく。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



高木「タイヤカスがてんこ盛りだぞ！ここからペース上げて取れるかなあ……。とにかく頑張るよ」  
安藤「了解です。今ポジション17。中団勢は49秒台。47秒5。今全体でトップのタイムです、速いです」

高木「これでまあまあタイヤカスは取れるね。トップ連中は何秒で走ってる？」

安藤「今50秒台です」

純粋な速さでは高木の方が圧倒的に上だった。

幸いなのは、チャンピオンシップを争うライバルたちも同じように中団に埋もれていたことだった。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA

高木「0号車と31号車はどこ？」

安藤「31号車はP17、2台後ろです。0号車はスタートして数周でピットインして今P23」

高木「プリウスは何秒台で走っていたの？」

安藤「31号車は48秒台中盤、ベストでも48秒0です」

高木「前のベントレーがいなくなった。まだタイヤカスが付いてるけどちょっと頑張るよ」

安藤「前はどんどんピットインしてきているので今プッシュです」

土屋「真一、ここプッシュだよ！」

安藤「プリウスがピットイン。ウチはあと8周行きたいです。47秒4、タイヤを換えたクルマより速いですよ！」

高木「俺を誰だと思ってる！」



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA





高木は猛プッシュでどんどんポジションを上げていき、23 周目にはセーフティカーでギャップをさらに縮める幸運にも恵まれた。他車のピットインもあって3 番手まで浮上したところで40 周目、高木はピットインしてショーン・ウォーキンショーにステアリングを譲ることになる。

最後にショーンに対してアドバイスも忘れなかった。

高木「3 コーナーと最終コーナーは最初は2 速で入って途中で3 速。ショーンに伝えておいて」



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**

**AUTOBACS**

**AUTOBACS**

**AUTOBA**

一方、GT500 クラスを戦う 8 号車は伊沢拓也がステアリングを握りポールポジションからスタートした。  
ミスなくスタートを切り、トップを快走する。  
レースエンジニアの星学文とのやりとりにも余裕があった。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**

伊沢「後ろとのギャップは？」

星「今ギャップ 1.8。伊沢くんの方が少しずつ速いよ」

伊沢「ラップタイムはどのくらい？」

星「7.3。今の周は同じ。その後ろは 36 が 7.5、100 が 7.9、それ以降は 8 秒台」

しかし 55 号車と同じようにタイヤにタイヤカスが付着してグリップを奪う。

先頭を走るがゆえに、最初に GT300 クラスのマシンを周回遅れにしていかなければならない。だからどうしてもレーシングラインを外して走る回数も増え、ライバルたちよりも多くタイヤカスを捨てることになる。


伊沢「いや～、もうリアのピックアップが！」

星「了解、了解。もうすぐ GT300 クラスがいなくなるから取れてくると思うよ」



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA



しかし12周目に一瞬の隙を突いて36号車に抜かれ  
首位を奪われてしまう。

伊沢「あ〜ゴメン、抜かれた！」

星「大丈夫だよ、これで300がいなくなったから頑  
張って36を抜かそう」

伊沢「17の後ろは何号車？」

星「17の後ろは1号車、その後ろが100号車」

19周目、セーフティカーが入ったところで一息つい  
て伊沢と星はマシンとタイヤの状況を確認し合い、  
このあとの戦略を考える。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



星「タイヤはリアがキツイ？」

伊沢「キツイと言うより、基本はピックアップしてるだけなんだよね。だからペースが戻れば変な感じはしないんだけど、300が絡んできたりしてピックアップするとちょっと大変。ベースのバランス的にはちょっとオーバーステア気味かな。

純粋なペースは速い8号車だけに、前がクリアな状態で本来の速さを発揮すれば逆転の勝機はある。セーフティカーが明けて他車がピットインするなら、そこで走り続けプッシュし続けることで逆転ができるはずだった。

星「17号車はSC明けに入るっていつてるけど、ウチは36の後ろでしばらくクリアで走れると思うから引っ張ろうと思うけどどう思う？」



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA



伊沢「何周かはズラした方が良いと思うけど、あまり引っ張りすぎるとどうなるか分からない」

星「じゃあ3周くらいは行こうか」

伊沢「了解、了解」

星「もしピックアップするようだったらピットインしようか」

レース再開から26周目まで引っ張ったが、ペースは苦しかった。

伊沢「ペース的にはこれが目一杯！」

星「了解、このままピットインしよう。最後頑張るって！」

ピットインして野尻智紀に代わりコースに復帰すると、順位を争っていたライバルが前に出ている。戦略は失敗だった。

星は野尻の頑張りに期待し、檄を飛ばす。

星「ここから5周がすごく大事だからね、とにかく17号車は行くよ。今5番手。頑張るって前に追い付いて行こう。17号車はアンダーがキツそうだから頑張ろう。後ろは100号車と6号車」

野尻は好ペースで周回を重ねていく。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA



# ARTA



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

# ARTA



しかし 47 周目、複数のマシンで順位を争う中で後方のマシンに激しく追突される映像が飛び込んで来た。

星「タイヤは大丈夫そう？」

野尻「アライメントが狂ってる」

星「真っ直ぐ走らない？」

野尻「走ってないかな……」



星「行けるんだったらそのまま行こう。様子を見ながら。あと 18 周。

今実質 10 番手。1 点でも獲ろう、1 点でも」

野尻「了解」

なんとか野尻はマシンをゴールまで運んだが、

まともに走れる状態ではなく 12 位でチェッカーフラッグを受けるのが精一杯だった。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA



ポールポジションを奪いタイトル争いの最終決戦へ駒を進めるはずが、まさかのノーポイント。そしてなにより、選手権争いから大きく遠ざかるというあまりにも辛い現実  
に直面することとなってしまった。

だが運やピックアップのせいにはしない。自分たちがポールポジションからトップを  
走り続けられるクルマを作ってさえいれば、こんな結果にはならなかったのだ。

星「お疲れ様でした。12番手。申し訳ない。タイヤはどうだった？」

野尻「すみません……。良くはないけどタイヤどうこうでもないかもしれない」

星「そうだね、17号車や100号車のタイムを見てもアベレージはもう少し速かったし、  
問題はクルマ側かな……」



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**

一方、ション・ウォーキンショーに代わった55号車は高木の後を継いでさらにプッシュとポジションアップを続けていった。走行開始直後に他車に接触されてヒヤリとする場面もあったが、大きなダメージはなく、ペナルティを受けることもなかった。

安藤「残り 20 周、プッシュし続ける。P9、前は 10 号車だ」


安藤「残り 15 周、タイヤライフに問題はないからプッシュし続ける。10 号車より 1 秒速いぞ」

安藤「P7。マザーシャシー勢より速いストレートで追い抜け」



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



無我夢中でプッシュするショーンは決して経験豊富とはいえないオートポリスにもかかわらず BMW M6 GT3 をものにして 52kg のウェイトハンディもものともせずハイペースで飛ばしていく。

そして最後は 4 位まで浮上してチェッカードフラッグ。8 号車の後退に沈んでいた ARTA のガレージを、再び明るくしてくれた。

安藤「P4、P4！素晴らしいドライビングをしてくれたよ！ありがとう！」

SW「みんなありがとう、クルマはとても良かったよ！少しダメージを負ってしまったけど速かった！」

土屋「みんなお疲れさん、良い仕事したよ！」



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA



ARTA

55

ARTA  
AUTOBACS

hanix.com

ARTA  
AUTOBACS

ARTA

17



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA



表彰台にこそあと一步届かなかったが、これでライバルに12ポイント差を付けて最終戦に臨むことができる。悲願の王座奪還はすぐそこだ。  
しかし今回8号車に襲いかかったような予期せぬ展開は誰にでも起こり得る。  
それがイヤなら、不運などに左右されない圧倒的な力を身につけるしかない。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



最終戦では、55号車にその力があるのかが試される。  
8号車も、僅かに残るチャンスに賭けて全力でリベンジを誓う。  
さあ、悲願の成就に向けて最終決戦の準備は整った。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**





AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



8

ARTA



ARTA  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA

T. NOJIRI



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**

*Pioneer*

**AUTOBACS**

**ARTA**



**AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI**



**AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI**

**ARTA**



super **AUTOBACS**  
ニッポンを元気に!

**AUTOBACS**

ARTA

COMTEC

Castrol **EDGE**

**WORK**

**BRIDGESTONE**

Technic BMW

COMTEC

Castrol **EDGE**

**WORK**

**BRIDGESTONE**



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



全国 主要  
家電量販店・パソコン専門店・ネットショップ  
2,608 店の POS 実売統計  
集計対象期間：2017 年 1 月～12 月

# コムテック ドライブレコーダー

## 2017年度 販売数量 第1位



前方・車内 2カメラモデル  
HDR-951GW



前方・後方 2カメラモデル  
ZDR-015

COMTEC

<http://www.e-comtec.co.jp/>





株式会社オートバックスセブン

# ARTA

THE "BIG RACE" FOR SUZUKI AGURI STARTED IN 1998  
AS HIS VISION FOR THE FUTURE. OVER THE YEARS, IT HAS EVOLVED  
THROUGH THE TOUGHNESS AND WILL OF ARTA. IN THAT SPIRIT,  
ARTA IS RACING TO INSPIRE THE FUTURE OF MOTORSPORTS.



ARTA Project



ARTA DIGITAL You tube チャンネル

To Be continued next race...

**ZERO** BORDER  
Team ZEROBORDER

©2018 ZEROBORDER INC. All rights reserved. No reproduction or republication

Director and Photographer : Masakazu MIYATA

Text : Mineoki Yoneya

Design : Hiroaki KATAYAMA

Special Thanks : AUTOBACS SEVEN CO., LTD